

北海道大学大学院獣医学研究科

自己点検・評価報告書

平成22年度～平成25年度

目 次

はじめに

I 総論

1. 教育研究の理念と目標	4
2. 沿革	4
3. 組織体制	5
4. 組織改革と将来構想	6
5. 中期目標・中期計画	8

II 教育

1. 教育目的（目標）と特徴	12
(1)目的（目標）	12
(2)特徴	12
2. 教育の実施体制	12
(1)教育組織の編成	12
(2)教育の実施体制	14
(3)教育改革に取り組む体制	14
3. 学生の受入	18
(1)アドミッション・ポリシー	18
(2)入学者選抜の実施体制	18
(3)AO入試の実施	18
(4)入学定員・収容定員	19
(5)入学者数・収容者数	19
(6)社会人学生の受入	19
(7)留学生の受入	20
4. 教育内容と方法	20
(1)教育課程の編成	20
(2)教育の方法	21
5. 学生支援	28
(1)学生へのガイダンス	28
(2)社会人学生への指導	28
(3)留学生の指導	29
(4)経済的支援	29
(5)表彰制度	30
(6)キャリアパス支援	31
6. 教育の成果	32
(1)履修・修了の状況	32
(2)進路・就職の状況	32
(3)学修に対する学生の評価	33
(4)学生が身に付けた学力や資質・能力	33
(5)教育成果に対する学生の評価	34
7. 教育の質の向上ならびに改善のための取り組み	35
(1)教育改善のための検討・実施体制	35
(2)ファカルティー・ディベロップメント（FD）の状況	36
(3)授業評価の実施状況	36
8. 教育活動（教育組織以外）	37
(1)教育活動の実施状況（教育組織以外）	37
(2)動物病院における地域獣医師研修	37

(3)その他の教育研修・セミナー活動	37
9. 特筆すべき事項	38
(1)博士課程教育リーディングプログラム	38
(2)新学院構想	40

Ⅲ 研究

1. 研究目的（目標）と特徴	44
(1)目的（目標）	44
(2)特徴	44
(3)研究の実施体制	44
(4)研究の支援体制	45
2. 研究活動の状況	47
3. 研究費の獲得（受入）の状況	53
4. 研究成果の状況	58
5. 研究業績一覧	61
6. 特筆すべき事項	62
(1)グローバルCOEプログラム	62
(2)研究拠点形成事業（アジア・アフリカ型）	62

Ⅳ 社会貢献(連携)・産学連携

1. 社会貢献の理念と目標	64
(1)社会貢献（連携）の理念	64
(2)社会貢献（連携）の目標	64
2. 社会貢献（連携）の状況	64
(1)地域社会への貢献	64
(2)世界レベルの研究教育拠点の形成	64
(3)研究・教育資源の整備	65
3. 産学官連携研究等の状況	66
4. 高大連携活動の状況	66
5. 学外活動の状況	67
6. 生涯教育の実施状況	68
7. オープンキャンパスの実施状況	69
8. 特筆すべき事項	69
(1)e-ラーニングの全国獣医系大学間協力	69

Ⅴ 国際交流

1. 国際交流の理念と目標	74
(1)国際交流の理念	74
(2)国際交流の目標	74
2. 国際交流の実績	74
(1)協定の締結状況	74
(2)教員・学生の交流状況	76
(3)国際学会・会議等における発表	78
(4)国際学会，国際シンポジウム，国際研究集会等の主催状況	78
3. 主な国際交流	79
(1)人獣共通感染症の教育と研究	79
(2)アフリカにおける環境毒性学の研究ネットワークの構築	80
(3)ソウル大学とのジョイントシンポジウム	81
(4)アジアにおける獣医学医療の国際教育	82
(5)エジンバラ大学との獣医学交流	82
4. 貢献の状況	83
(1)国際貢献の状況	83

VI 広報	
1. 広報活動の状況	86
(1)一般広報活動	86
(2)入試広報	88
(3)同窓会関連広報	90
VII 管理運営等	
1. 管理運営体制	92
(1)管理運営体制	92
(2)教員組織の編成	92
(3)教員の人事	94
2. 教育研究支援体制	96
(1)事務系組織	96
(2)技術系組織	96
(3)支援室	96
3. 研究者倫理・不正防止	98
(1)倫理綱領等	98
4. 財務	99
(1)予算と予算配分	99
5. 危機管理	100
(1)個人情報管理	100
(2)安全管理	100
(3)防災対策	100
VIII 施設・設備・図書	
1. 施設・設備の状況	104
(1)教育研究施設・設備の状況	104
(2)情報関連設備の状況	104
(3)環境整備の状況	105
2. 図書の状況	106
IX 共同利用施設	
1. 共同利用施設の活動状況	112
(1)動物施設	112
(2)獣医標本施設	113
(3)共同利用機器施設	113
X 附属動物病院(動物医療センター)	
1. 概要	116
2. 診療の体制状況	116
3. 診療の状況	118
4. 教育・研究における役割の状況	120
5. 地域拠点動物診療施設としての状況	121
XI 添付資料	

はじめに

北海道大学大学院獣医学研究科は、平成7年の大学院重点化により北海道大学における獣医学の教育・研究の主体となり、現在に至っている。平成17年からは、新しく設置された人獣共通感染症リサーチセンターが協力講座として教育・研究にあたっている。また、平成26年4月には北海道大学教育研究局（GI-CoRE）の1組織として「人獣共通感染症グローバルステーション」が設置されたこと、ならびに獣医学術研究・教育の高度化、専門化、国際化の必要性が高まっていることを受けて、現在、大学院の組織改革、即ち従来の獣医学研究科から、教員組織・研究実施主体としての獣医学研究院への改編、教育組織としての獣医学院と国際感染症学院の設置を平成29年度から実行すべく準備を進めているところである。

今回の自己点検・評価は第二期中期目標・中期計画期間の平成22年度～平成25年度を対象としたものであり、こうした組織改革、将来展開を目前にした時期に対する点検・評価という大きな意味がある。この間、本研究科では、「21世紀COEプログラム：人獣共通感染症制圧のための研究開発（平成15年度～平成19年度）」や「大学院教育イニシアティブ：次世代の獣医科学研究者育成プログラム（平成17年度～平成18年度）」に続き、「グローバルCOEプログラム：人獣共通感染症国際共同教育研究拠点の創成（平成20年度～平成24年度）」「研究拠点形成事業（アジア・アフリカ型）：国際トキシコロジー・コンソーシアムの形成（平成24年度～平成26年度）」、そして現在進行中の「博士課程教育リーディングプログラム：One Healthに貢献する獣医科学グローバルリーダー育成プログラム（平成23年度～平成29年度）」など、比較的大きな教育・研究プログラムを推進してきた。学生数の充足や英語開講科目の増加、留学生数の増加で示される国際化等は、それらの具体的成果と云えよう。共同利用機器・設備の整備、実験動物飼育管理基準の国際水準化、動物施設の整備、さらに直近の附属動物病院（動物医療センター）ならびに講義棟の新築など、相当の自助努力により教育・研究環境の拡充を果たしてきたことも私たちの誇りとするものである。

獣医学研究科が目指すのは各領域での世界に誇れる高度で闊達な研究活動と世界に通用する大学院教育の実践、それらを通じた人材の育成である。本研究科は比較的早期から自己点検・評価や外部評価をスタートさせた歴史があり、学術誌でもある紀要（**Japanese Journal of Veterinary Research**）で毎年の業績を公表してきたが、教育・研究を含めた総合的な点検・評価として、今回の評価はほぼ12年ぶりの本格的なものとなる。その間の活発な教育・研究プログラムの推進それ自体は誇れる特徴、強みであるとして、そのなかで何かしら見過ごしはなかったであろうか？率直かつ丁寧な現状評価の意義は、それに基づく将来へ向けての改善を可能とすることにある。久しぶりとなる今回の評価を通して現状の問題点を洗い出し、従来の取組の成果や努力を活かして、第三期中期目標・中期計画期間、あるいはその先に待ち受ける困難に立ち向かう方策の根拠としたい。

平成27年2月20日

北海道大学大学院獣医学研究科長
稲葉 睦